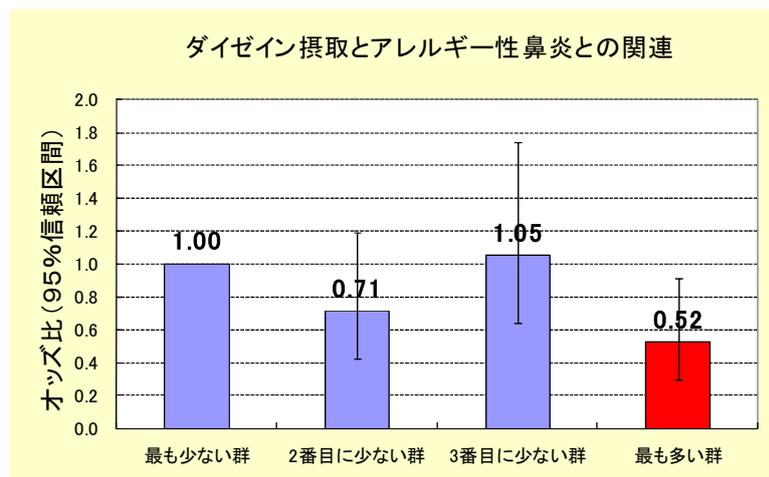


大阪母子保健研究ベースラインデータの結果 大豆類、イソフラボンの摂取とアレルギー性鼻炎との関連

背景：イソフラボンは多くの慢性疾患のリスクを下げるといわれています。しかし、アレルギー疾患に対する影響については、未だ報告がありません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査に参加した 1002 名の妊婦さんを対象としました。最近 1 年の間にアレルギー性鼻炎（花粉症も含む）の投薬治療を受けた場合をアレルギー性鼻炎ありと定義しました。交絡因子として、年齢、ベースライン調査時妊娠週、子数、喫煙状況、家庭内及び職場での受動喫煙状況、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎の家族歴、屋内のペット、家計の年収、教育歴、寝具のダニ抗原量、BMI、過去 1 ヶ月の食事変容、季節を補正しました。

結果：摂取量によって 4 等分すると、最も多く大豆食品を摂っている人では、最も少ない人に比較して、アレルギー性鼻炎の有症率が約半分になりました。豆腐や納豆など、個々の大豆食品で検討すると、いずれも統計学的に有意な関連はありませんでした。大豆



イソフラボンの主要構成要素であるダイゼインとゲニステインともに、最も多く摂取している群で有意にアレルギー性鼻炎の有症率が低くなりました。大豆蛋白についても最も摂取の多い群で有意に予防的な関連を認めました。

結論：総大豆、イソフラボン、大豆蛋白を最も多く摂取している群で、アレルギー性鼻炎の有症率が有意に低いことを世界で初めて報告しました。

出典： Miyake Y, Sasaki S, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H, The Osaka Maternal and Child Health Study Group. Soy, isoflavones, and prevalence of allergic rhinitis in Japanese females: the Osaka Maternal and Child Health Study. *J Allergy Clin Immunol.* 2005; 115: 1176-1183.